

平成26年度 第1回

国語

〔注意事項〕

- 1 問題は一から三までです。
- 2 時間は50分です。
- 3 下敷き、シャープペンシルおよび電算機付きの時計の使用を禁止します。
また鉛筆は、HBを使用して下さい。(持っていない場合は、ほかの濃さでもかまいませんが、濃く書くようにして下さい)
- 4 開始のチャイムが鳴るまで問題用紙を開かず、手を触れないで下さい。
- 5 考査中はよそ見をせず、きちんとした態度で行って下さい。
- 6 何か物を落としたら、黙って手をあげて下さい。
- 7 他の受験生に迷惑となるような行為をしないで下さい。

「次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。」

十月の二週目に、キャンドルナイトの一回目のリハーサルを行った。

この日は、グラウンドに方眼状にラインを引く練習をすることになっていた。この間進藤先輩が言っていたように、正確なマス目が描けなければ図面どおりにはできあがらない。ただ一方で、それさえ描いてしまうことができたなら、あとは四隅などポイントになる場所に目印を付けておけば、二回目以降は線を引くのも

A 楽になるはずだった。目印には、ペグという太い釘のような金具の先に、ビニールひもを結びつけたものを打ちこむことになっていた。

「橘くん、ちょっと」

グラウンドに出ていく途中、原先輩に呼びとめられた。いきなりプリントの束を手渡される。

「これ、今日の資料」

「えっ？」

「進藤くん、昼休みごろ急に体調悪くなって、さっき早退しちゃったの。それで、これ預かってきた。今日の工程表らしいよ。あとは頼んだ、だって」

原先輩はほんとと変わらない位置にある顔を傾け、少し困ったように笑った。

「ええっ、そんな、急に……」

慌てて手渡された紙をバラバラとめくってみると、進藤先輩の手書きの文字がびっしりと書きこまれている。ぼくは思わず原先輩の顔を見上げていた。

「あの、……これ……？」

原先輩は同情するようにゆっくりと首を振る。

「読めないでしょ？ 進藤くんね、ものすごい悪筆なの。壊滅的に字が下手なの。『おまえのそれは梵字か？』ってこの前も谷先生に突っこまれたくらい」

「……そんなあ」

ぼくは読めない工程表と、まだ半分ほどしか集まっていない委員たちを前に、1を抱えこんでしまった。

ようやくメンバーがそろったのは、それから三十分を過ぎたころだった。二十名ちょっといるキャンドル委員たちは、みなあまりやる気もないようで、用具倉庫へ向かっておしゃべりしながらだらだらと歩いていく。その間、ぼくは必死で進藤先輩の暗号のような文字を解読しながら、リハーサルの手順を読みとっていた。

「ええ、まずは、人？ ……じゃなくて、ト、トラックの直線コースの部分を使って、基準の、う？ あ、ラインを引く、か……？」

通りすがりに用具を抱えた元気がのぞきこんでいく。

「うわ、こりゃすげえ。知らなかった、あの先輩にこんな特技があったなんて」

なにが特技なもんか。

と、やっぱり同じようにのぞきこんできた水原が、「……先輩、すごい」と小声でつぶやいた。

すべての用具を出し終わるころには、けっこう時間がたってしまっていた。途中で一年生がライン引きのカードをひっくり返してしまい、それを片づけていたせいもある。

「ええと、じゃあまず、横に二十二メートルのラインを引きます。それから、次は縦方向に二十メートル……」

ぼくがせいっぱい声を張りあげても、みんなあまり聞いていない。

「それじゃあ、メジャーでハかるから、だれかカード押して」

結局、ぼくや元気や水原といった、いつものメンバーでやることになる。一年生たちはなにをいいのかわからないようすでぼうっと突っ立ち、他の連中は手持ち無沙汰そうにグラウンドのあちこちで好き勝手におしゃべりをしている。

途中で谷先生も見にきたが、そんなようすを見ても特に注意するわけでもなく、少し離れた場所で腕組みをして黙って立っているだけだ。

「あれ。これ、なんか短くないか？」

「え、そう？」

「だって、図面見ろよ。二十二メートルならもっこの辺に」

「うそ、二十二メートル？ 二十じゃなくて？」

すでに基準線がまちがっている。そのとき、トラックの向こう側から水原が呼びかけてきた。

「ねえ、これ、ちゃんと直角になってる？」

「直角？」

ぼくと元気は顔を見合わせた。

「直角って、どうやって確かめるんだっけ？」

「……えっと、三角定規？」

足もとを見る。石灰で描かれたラインが、ガタガタとふぞろいに伸びている。ぼくたちの筆箱に入っている小さな三角定規では、とても役に立ちそうになかった。水原が走って戻ってきた。風に吹かれて髪がくしゃくしゃにもつれている。

「どうしよう。ここで適当に引いちゃうとあとで困るよね？ だけど、途中でメジャーがねじれたりするんだとすると、長さもすぐ変わっちゃうし」と、すぐそばで「やだあ」と楽しげな笑い声があがった。いつの間にかしゃがみこんでいる一年生たちだった。

「ねえ。座ってないで、手伝ってくれない？」

水原が声をかけると、一年の女子たちは気まずそうに腰を上げた。

「……すみません」

B 上目づかいでぼくたちを見る。

「べつに好きで座^{すわ}ってるわけじゃないんだけど」

べつのところで声がした。ふり返ると、少し離れた場所に座^{はな}っていた三年生の中で、木崎先輩^{きざきせんぱい}のポニーテールが揺^ゆれるのが見えた。と、今度はひとりの先輩が埃^{ほこり}をはたきながら立ちあがった。

「悪い、おれ、そろそろ帰るわ」

「あ、おれも」

「え？ でも、まだなにも……」

「すまん。これから塾^{じゅく}あるから」

ばらばらと数名が立ちあがってその場を離^{はな}れていく。

「ごめん、橘^{たちばな}くん、わたしもなの」

原先輩がすまなそうに手を合わせ、急ぎ足で帰^{かえ}っていった。やがて三年生のほとんどがいなくなってしまい、グラウンドは急にがらんとしてしまった。

「あーあ」

元気がつぶやき、後ろで水原がふう、とため息をつく。ため息をつきたいのは、ぼくのほうだった。^①うらめしい思いで進藤先輩の暗号文を見やる。

結局、その日は時間切れになり、ほとんどなにもできないまま終わってしまった。一年生たちが、C 片づけを手伝^てってくれたことだけが救^{すく}いだった。リハ

サルは、翌週またあらためてやり直すことになった。

「ちよっと、やり方を考えたほうがいいかもしれないな」^②

帰り道、元気がちらりとぼくを見て言った。

「……ん。そうだな」

三年生たちは、きっとこれからもっと忙^{いそ}しくなるのだろう。進藤先輩にもこれまでどおりの手伝いは期待できない。

なんとか十二月までに形にしなければ。

歩道橋の階段を上りながら、頭の中をそのことばかりがぐるぐる回^{まわ}っていた。

その日の夜、ぼくはパソコンの前に座^{すわ}り、頬杖^{ほおづえ}をついて考えこんでいた。

どうすれば、もっとテギワよく進められるだろう。

「問題はこれなんだよな、やっぱり……」

目の前に、びっしりと細かい文字で書きこまれた進藤先輩の工程表がある。とにかく、これを読めるように清書するのが先決だ。

といっても、ぼくだってけっして字に自信があるわけではないので、パソコンで入力していくことにする。慣れない手つきでぼつぼつと文字を打ちこみながら、それでも、ぼくはひどく感心していた。解説には時間がかかったが、さすがに進藤先輩が作っただけあって、その工程表の出来栄^{できばえ}はすばらしかった。もしこの手順どおりにやれていたら、今日だって最後までやり終えることができたかもしれない。

そこへ父さんが、自分も仕事用の書類やパソコンを抱^{かか}えてリビングに入ってきた。

「お、論理^{ろんり}、宿題か？」

ぼくの手もとをひよいとのぞきこむ。

「ちがうよ。……これは、委員の仕事」

さりげなく隠^{かく}したつもりだったが、父さんは横に置いてあった資料に目をとめた。

「キャンドルナイト実行委員？ なにそれ、論理たちの中学校でそんなことやるのか？」

父さんは興味を持ったようで、いろいろとぼくに尋^{たず}ねてくる。

「……へえー、創立記念行事でねえ。洒落^{しやれ}なことやるな、最近の中学校は。で、おまえはその世話役で、そのための工程表を用意してってわけか」

そう聞かれて、なんとなく言い訳口調になった。

「べつに、こんなのやらなくてもいいんだけどさ。みんな、なかなか動いてくれないから」

「うん。だろうな」

父さんはわかる、というふうにならずいてみせた。

「でも、真っ先にやるべきは、まず全員での情報の共有。論理のやってることは正しいと思うよ」

「情報の共有……」

「うん。あとさ、これはよけいなお世話かもしれないけど、係を割りふってそれぞれの担当を決めたほうがいいかもしれないな。こういうとき、やることははっきり決まっていたほうが、人は動く」

父さんはそれだけ言うと、ぼくに背を向けて自分も書類を広げ、黙^{だま}って取り組みはじめた。部屋には小さく絞^{しぼ}ったテレビの音と、カタカタとキーボードを打つ音だけが響^{ひび}いている。

情報の共有、か……。

心の中でつぶやく。確かに、この工程表をみんなに配^くっておけば、少なくともなをすればいいのかわからないということは起こらないはずだ。^③

「 2 」

しゃがみこんでいた生徒たちの姿が浮^うかぶ。

ぼくはもう一度、進藤先輩の手書きの工程表に目をやった。なんと見ても目がちかちかするような読みにくい文字だ。だけど、ぼくにはとてもこんな緻密^{ちみつ}な計画

は立てられない。

ぼくはぐるりと肩を回し、再びパソコンの画面に向かった。

しばらく続けるうちにだいぶ調子が出てきた。キーボードを打つのもスムーズになってくる。読めなかった工程表が、だんだん形になっていく。

やることははっきり決まっていたほうが、人は動く。

そうかもしれない。これまで、ぼくたちは進藤先輩ひとりに頼りすぎだった。言われたとおりにしていれば、まちがいはなかった。だから、考えようとしなかった。でも、それではきつとだめなのだ。

進藤先輩だって、けっして完璧なわけじゃない。きっと、見えていない部分もある。その足りない部分を補うこと。たぶんそれが、さしあたっての今のぼくの役目だ。

市川朔久子『紙コップのオリオン』より（一部、改変があります。）

問一 部 a i c のカタカナを漢字に直さない。

問二 A C に最も適する語を、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア セッセと イ ちらりと ウ ひょいと エ ぐっと

問三 1 に漢字一字を入れ、慣用句を完成させなさい。

問四 部 ①「うらめしい思い」とありますが、「ぼく」のどのような思いのことでしょうか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 進藤先輩が裏にヒントを書いておいてくれたらきつと暗号文を解読できたのという思い

イ 進藤先輩の工程表がもっときれいに書かれていたらリハ－サルはもっとうまくいったのという思い

ウ 進藤先輩が来られないのならなぜ他のメンバーにきちんと言っておいてくれなかったのだという思い

エ 進藤先輩はなぜ原先輩ではなく、後輩である自分に仕事を任せたのだろうと納得できない思い

問五 部 ②「ちょっと、やり方を考えたほうがいいかもしれない」と友人の「元気」が言っていますが、「父さん」のアドバイスを受けて気がついた新しい二つのやり方を文中の言葉を使いながらそれぞれまとめなさい。

問六 2 にあてはまる、部 ③「なにをすればいいのかわからない」という気持ちが込められていたリハ－サル中の他の生徒の言葉を本文中から抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問七 部 ④「緻密な計画」とありますが、どのような意味でしょうか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一つひとつ実行するのがとても面倒くさい計画

イ 細かいところまで心づかいが行き届いている計画

ウ 直前まで他の人には秘密にしなければならぬ計画

エ 細かくて専門家でないと理解できないほどの計画

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ことばが人間にとって重要である①ことは、すなわち考えることが重要であるということでもある。人間はことばの環境のなかで、たえず思考を通じて反省し、ものごとを選択し、あるいは創造し、洞察している。

フランスの科学者で哲学者のパスカルは、「人間は考える葦である」と言った。その意味するところは、② ということである。

われわれは、なにかに直面すると思考する。そこで大事なものは、他人まかせではなく、自分の頭で考えるということである。そのために常日ごろから自分で「考える力」を養う努力が必要なのである。

A、どのようにすれば考える力を養うことができるのか。それは、ことばで考えることを確実にすればいいのである。そうすることによって、考える力がだんだんと強化されていくのである。

考えるということは、すなわちことばで考えるということである。それが証拠に、よく考えないとうまく話ができないし、文章もまとまらない。逆によく考えることができれば、うまく話せたり書けたりする。考える力を強化するということは、すなわち脳を活性化することでもある。であれば、ことばが脳を進化させると考えられなくもない。

最近、脳の研究が飛躍的に進んだせいか、やたら脳を鍛えるといったようなことが雑誌や書籍で取り上げられている。私などはいまさら脳を鍛えても、これ以上頭はよくならないとあきらめているが、若い人の脳は鍛えれば鍛えるほどよくなると思う。脳を鍛える方法として、私はいい本を読むことをすすめる。いい本との出合いが人間を成長させることは、いまさら言うまでもないが、そこに書かれていることばの意味を考え、理解することは、脳の訓練方法としては安上がりでもってこいである。

よく「人間は四〇歳を過ぎたら自分の顔に責任をもて」という。第一六代のアメリカ大統領エイブラハム・リンカーンのことばからの引用だが、いまなら「顔」を「脳」に置き換えるとわかりやすいかもしれない。自分の脳にどういう学習をさせるかは自分しだいである。いわば自分の脳は自分でつくると言ってもいい。どういう脳をつくるかは各人の努力しだいであり、いわば「自己責任」であるともいえる。

自分の脳は自分でつくるといっても、ある程度の年齢に達するまでは大人の責任である。多くの場合は親の責任だ。親は子どもの成長をサポートしてやる義務がある。

周知のとおり、人間は生まれて間もないころは、動物と同じようにことばをもっていない。子どもがことばを習得するのは、ことばを話す人間社会のなかで育てられるからである。成長する過程でいろいろな人々と接触し、刺激を受けてことばを覚えていくのである。

いくら人間の脳がほかの動物より進化しているといっても、その能力が発揮できる環境に置かれないと、ことばは習得できないし発達もしない。

人間の子どもが、人間の社会から隔離されて育つと、まったくことばを話さなくなってしまうという。かなり前のことだが、フランスの山奥でけものとともに育った少年が発見されて話題になったことがある。発見された当初、少年はまったく人間のことがしゃべれなかった。その後の訓練でことばを習得したそうだが、これなどは、いかに人間は育つ環境が重要であることを示した好例である。

ただ、人間の言語社会のなかで育てられた子どもであっても、口のきき方を知らない者はいる。なかでも自分の主張ばかりを押し通そうとする人との会話は閉口する。

幼い児童を見ると、自分だけの世界を頭に描き、自分だけの考えに基づいて話をしてることがわかる。それが年齢を重ねるとともに精神も発達し、生活の範囲が拡大され、多くの人びとと交流することによって、思考も成熟していく。

B、大人になっても幼児と同じような、思考の未熟な人がいる。自己中心的な思考しかできない人である。最近このような思考タイプの人間が増えたような気がする。こういう人間のことを、若者用語で「ジコチュー」というらしい。流行語にもなったくらいだから、やはりそういう人間が多くなったということだろう。

自己中心的な思考をする人は、概して感情表現が豊かでない。相手の気持ちやその場の雰囲気をつかむことができないから、独断と偏見に陥りやすい。相手のことばをよく聞き、理解することで表現能力はみがかれるものである。

C 感情表現が豊かな人は、思考能力が成熟しているといえるのである。

齋藤茂太『人の心を動かす「ことば」の極意』より（一部、改変があります。）

- * 洞察……よく見通すこと。見抜くこと。
- * 隔離……へだたること。へだてはなすこと。
- * 概して……だいたい。一般的にいつて。
- * 独断……自分一人の意見で決断すること。
- * 偏見……かたよった見方。

問一 A C に適する語を、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア ところ イ だから ウ もし エ では

問二 部①「考えることが重要である」とありますが、筆者は「考える力」をつけるためにどうすればよいと考えていますか。文中から十八字で抜き出さない。

問三 文中の ② に適するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間は弱いものだが、一本の葦のように、踏まれても立ち上がろうと考える強い存在でもある

イ 人間は強くたくましい一本の葦のような存在であり、ものを考えることによりさらに強くなることができる

ウ 人間は一本の葦のような弱い存在だが、ものを考えるという特性によって、弱さを克服することもできる

エ 人間は一本の葦のような弱い存在であり、ものを考えることができるとはいっても、弱さを克服することはできない

問四 部③「脳を活性化する」とありますが、そのために筆者はどのようなことをすすめていますか。文中の語句を使って三十五字以内で答えなさい。

問五 部④「顔」を「脳」に置き換える」とはどういうことですか。その説明として適するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の顔には自分の生き方が表れる。

イ 自分の顔は年齢とともに良くも悪くも変化していく。

ウ 自分の脳の進化は自分の努力にかかっている。

エ 自分の脳は他人からの影響を受けて活性化する。

問六 部⑤「少年はまったく人間のことばがしゃべれなかった」とありますが、なぜですか。次の文の() に本文中から十字の語句を抜き出して入れ、答えを完成させなさい。

少年は() ()のなかで育てられなかったから。

問七 部⑥「閉口する」の意味を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 二度としたくない

イ おもしろくない

ウ つかれてしまう

エ 困ってしまう

オ 腹立たしい

問八 部⑦「自己中心的な思考しかできない人」とありますが、そうならないためにはどうすればよいと筆者は述べていますか。文中の語句を使って三十五字以内で答えなさい。

問九 筆者の主張と合っているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア われわれ人間が、どういう脳をつくるかは生まれた時から「自己責任」である。

イ「ジコチュ」の人は感情表現が豊かなので、独断と偏見に陥りやすい。

ウ われわれ人間は、ことばによってものを考える特性を持っている。

エ 人間の子どもの脳は進化しているので、どんな環境でもことは習得できる。

三 次の四字熟語の意味を後のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 絶体絶命
- ② 馬耳東風
- ③ 言語道断
- ④ 針小棒大
- ⑤ 一日千秋

ア 人の意見や批判などを聞き流して気にしないこと
 イ どうにも逃れようのない、差し迫った状態や立場に追いこまれること
 ウ 早く実現すればよいと待ち遠しく思うこと
 エ あきれて、ことばも出ないほど、ひどいようす
 オ 心が弱り、小さいことも大げさに考えてしまうこと
 カ 小さいことを大げさに言うこと

(＊のらんには、何も書かないこと)

受験番号

* 評 点

	受験番号
--	------

	＊ 評 点
--	----------------------

	a
	b
	c

	A
	E
	C

10

7

やり方。	やり方。
------	------

やり方。

やり方。

3

5

問七

11

	A
	B
	C

[illegible]

18 字

101

[illegible]

35 字

111

[illegible]

10 字

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

[illegible]

35 字

11

	①
	②
	③
	④
	⑤

*